

漁況予報 いわし

第172号

2012年7～8月漁期
(2012年7月18日発行)

※1 平年：過去5年平均
※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は5月が15トン、6月が0.5トンで、両月とも前年(5月148トン、6月229トン)および平年^{※1}(5月141トン、6月63トン)を大きく下回りました。

魚体は、6月には被鱗体長^{※2}(以下同)9～11cmのヒラゴが主体でした。これは2012年生まれの0歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、5月上旬には小羽マイワシが鮮魚として水揚げされましたが、それ以降は餌イワシとしてヒラゴがカタクチイワシに混じる程度でした。

4月まで漁獲主体であった小羽～中羽サイズの1歳魚は、5月中旬以降は湾内であまり漁獲されなかったことから、前号の予測とは異なり、大半は東北海域に北上したものと考えられます。

今後はひきつづき0歳魚(ヒラゴ～小羽サイズ)が漁獲主体となると考えられます。

【カタクチイワシ】

主要定置網における5月のカタクチイワシ総漁獲量は451トンで、不漁だった前年(194トン)を大きく上回ったものの、平年(691トン)を下回りました。つづく6月の漁獲量(速報値)は359トンと、前年(465トン)および平年(662トン)を下回りました。

魚体は、6月には9～12cmの小型成魚が主体でした。これは2011年生まれの1歳魚と推定されます。

佐島地区のまき網は、餌イワシとしての漁獲が継続しました。

今後はひきつづき小型成魚が漁獲主体になり、8月頃からは9cm未満の未成魚も漁獲されると考えられます。

【シラス】

4月まで不漁であった相模湾のシラス漁ですが、続く5月も全域で不漁のまま経過しました。5月のシラス漁獲量(標本船データより推定)は好漁だった前年および平年を大きく下回りました(前年比0.2倍、平年比0.4倍)。つづく6月も湾東部では不漁傾向が継続しましたが、湾西部で中旬以降に漁獲が好転したため、前年および平年をやや上回る漁獲量となりました(前年比1.2倍、平年比1.2倍)。

当所が実施した卵稚仔プランクトン調査による、6月の相模湾のカタクチイワシ卵の分布量は1,723粒/曳網であり、前年(409粒/曳網)および平年(497粒/曳

網)を大きく上回りました。これまでの調査結果から、卵分布量が1,000粒/曳網を超える年は、その後のシラス漁獲量がかえって低下することが多いため、今後の経過を注視する必要があります。

= 予報 =

【マイワシ】

今漁期は、2012年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ(10～14cm)が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、春季のマシラスの漁獲状況から、前年を大きく下回る約170トンと予測されます。

【カタクチイワシ】

今漁期は、2011年生まれの小型成魚(9～12cm)が漁獲の主体となるでしょう。

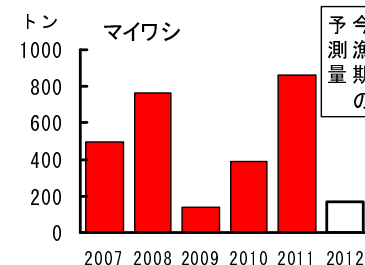
今漁期の漁獲量は、5～6月の県内主要定置網の漁獲量から、前年並みの290トンと予測されます。

【シラス】

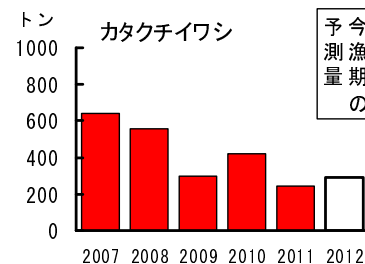
今漁期は、6月以降に発生したカタクチシラスが漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、6月の相模湾周辺のカタクチイワシ卵分布状況から、前年をやや下回る約80トンと予測されます。

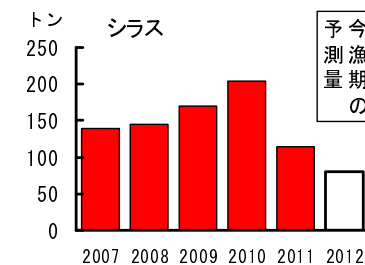
過去5年の7・8月漁期の漁獲量と今漁期の予測量



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網



神奈川県水産技術センター資源環境部
三浦市三崎町城ヶ島 (046)882-2313